令和 7 年度　東京都内湾水生生物調査　9 月成魚調査　速報

●実施状況

令和 7 年 9 月 4 日に成魚調査を実施した。天気は曇りで時折小雨の天候であった。気温は 27.1～28.4℃であった。調査地点の風は北から北東の風で、風速は 2.8～4.4m であった。調査当日は中潮で、干潮は 8 時 44 分、満潮は 16 時 15 分であった（気象庁のデータ）。当日の水色は概ね暗緑色で透明度が 1.5m 以上であったことから赤潮ではなかった。種別では、スズキ、マルアジが 2 地点で確認された。魚以外では、ホンビノスガイが St.35 で確認された。

項目　/　地点名	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時間	9:41-10:45		10:55－12:15		12:49-13:32		13:45－14:14	
水深(m)	24.4		14.6		15.1		7.6	
天候	曇り		曇り		曇り		曇り	
気温(℃)	27.1		28.4		27.8		27.5	
風向/風速(m/sec)	NE/4.1		NNE/2.8		N/3.6		NNE/4.4	
波浪(m)	0.6		0.4		0.3		0.2	
透明度(m)	2.5		1.9		1.8		1.5	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	28.6	19.8	29.0	26.2	29.2	27.9	29.5	28.9
塩分(－)	29.8	33.6	23.2	30.8	28.4	30.8	27.0	29.1
DO(mg/L)	7.2	0.3	6.9	0.6	8.6	1.8	8.5	2.5
DO 飽和度(%)	110.3	7.2	101.3	9.14	131.9	26.5	130.3	36.9
pH(－)	8.4	7.7	8.5	8.1	8.6	8.3	8.5	8.3
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考	下層は貧酸素状態であった。		下層は貧酸素状態であった。		下層は貧酸素状態であった。		－	

観測層：上層（0m）、下層（海底面上 1m）。貧酸素状態とは DO（溶存酸素量）が 2mg/L 以下の状態。

●主な出現種など（速報なので種名は未確定です）

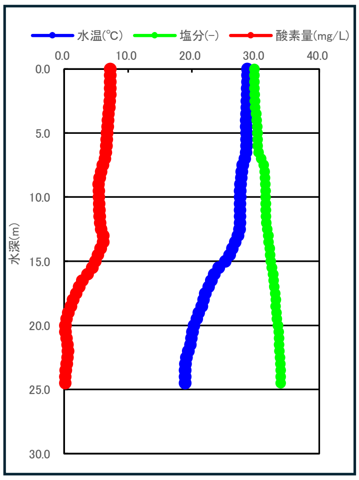
主な出現種など	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	（出現せず）	アカエイ（r） ツバクロエイ（r） スズキ（r）	マルアジ（c） マアジ（r）	コノシロ（+） スズキ（r） サッパ（r） アイゴ（r）
魚類以外（目立った種）	ホンビノスガイ（r）	（出現せず）	（出現せず）	（出現せず）
上記以外	（出現せず）	（出現せず）	カタクチイワシが確認された。	マルアジが確認された。

*）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。
G：1000 個体以上、m：100～1000 個体未満、c：20～100 個体未満、+：5～20 個体未満、r：5 個体未満

調査地点:St.35

調査地点位置

水質状況



地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料

採取試料(全量)

ホンビノスガイ

北米原産の外来種で、殻長 10cm を超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。

主な出現種　※写真のスケール１目盛り:1mm

タイラギ(死殻)

成長すると殻長 25cm を超える大型の二枚貝。尖った側を下にして海底に突き刺さったように生息している。東京の湾奥部では、春から秋にかけて発生する貧酸素水塊で死滅するため、殻長 10cm 程までしか成長できない。

シオフキ(死殻)

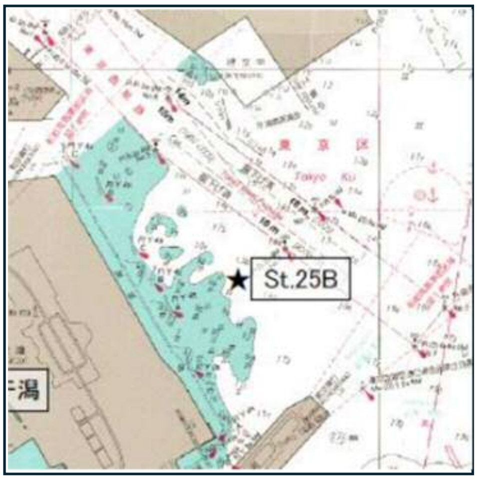
内湾よりの浅場付近に生息する。バカガイに似ているが、膨らみが強い。また貝殻の色合いは変化が多い。この写真の個体は斃死個体のため底質の影響でツヤが失われている。

ムラサキイガイ(死殻)

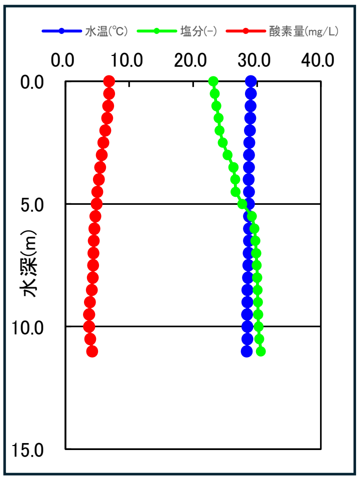
地中海沿岸原産の外来種。潮間帯の岩等の硬い基盤に足糸で固着する。漁網、ロープ等の漁具や漁船の船底に大量に付着して汚損被害を生じるだけでなく、夏季の高温より大量にへい死し、それにより水質汚染が発生することがある。東京湾内では近年減少している。

調査地点:St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況

西側には東京国際空港が見える。

採取試料

採取試料
（貝類）

アカエイ

砂泥底に生息し、胸鰭の一部を指状に動かして餌生物を探す。体色は赤色で、胸鰭内面に種独特の色斑を持つものが多い。

主な出現種　※写真のスケール１目盛り:1mm

ツバクロエイ

東京湾全域から出現記録がある。砂泥底に生息する。眼と噴水孔を砂の上に出し、砂中に潜んでいることが多い。胎生で、繁殖期は春。縞模様のある短めの尾にはアカエイ同様に毒の棘がある。ツバクロとはツバメのことで、幅広の体で泳ぐ姿がツバメに見えることからこの名が付いた。

スズキ

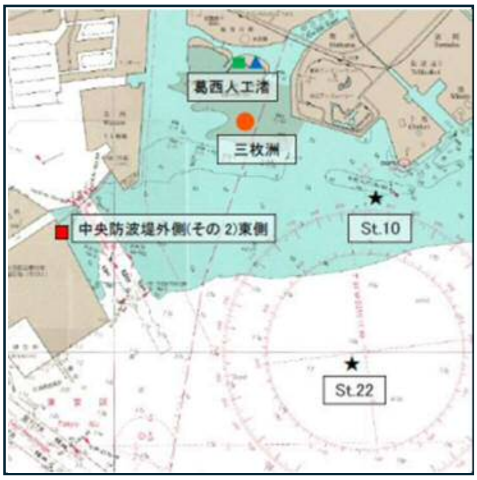
外海に近い湾口部や岩礁で生まれたのち稚魚は春季になると内湾に移動する。エビや小型魚類を食べる。夏季には汽水域や河川に生活範囲を拡大する。

シオフキ(死殻)

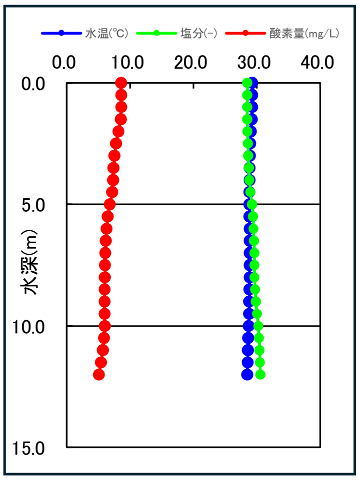
内湾よりの浅場付近に生息する。バカガイに似ているが、膨らみが強い。また貝殻の色合いは変化が多い。この写真の個体は斃死個体のため底質の影響でツヤが失われている。

調査地点:St.22

調査地点位置



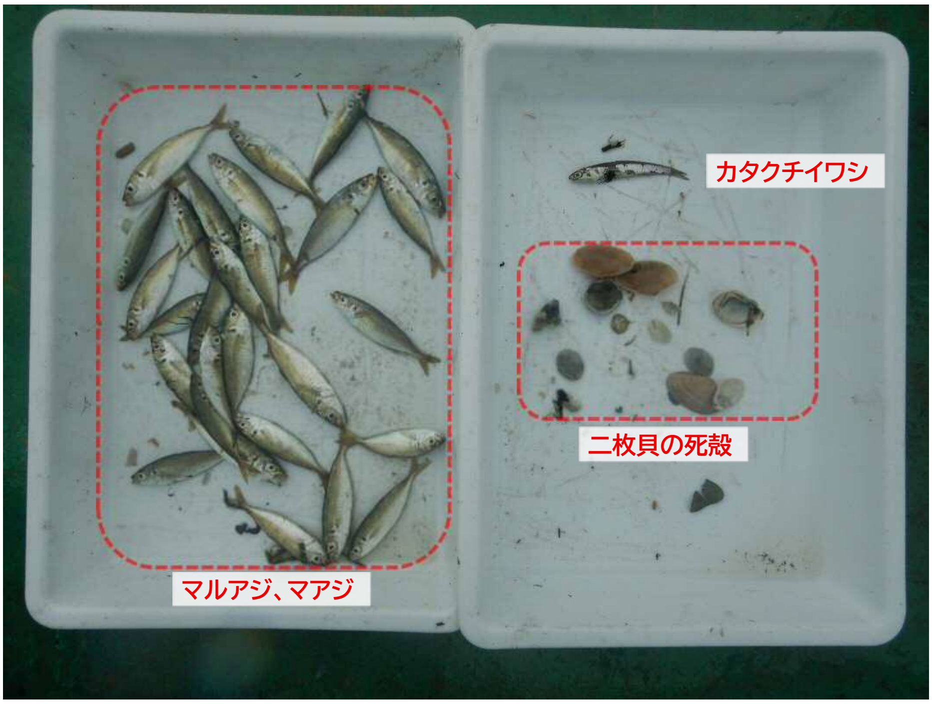
水質状況



地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

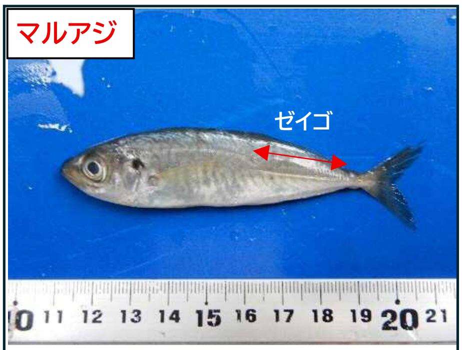
採取試料



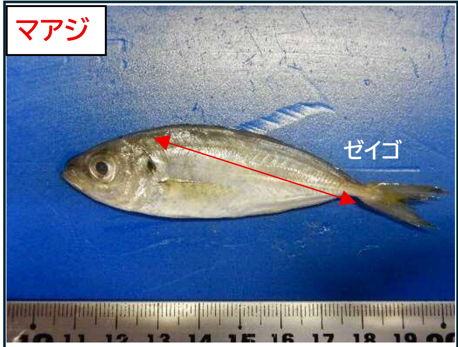
採取試料（全量）

東京湾の表層域では最も個体数の多い魚種である。口を開けると下顎だけが垂れ下がることが名前の由来。網の揚げ降ろし時に入網したと考えられる。

主な出現種　※写真のスケール１目盛り:1mm



内湾からやや沖合に生息する。マアジと似ている。尾鰭の付け根に小さな鰭が上下にあること、「ゼイゴ（稜鱗）」が体の後半部のみにあることで区別できる。
今回の調査ではほぼマルアジが占めた。

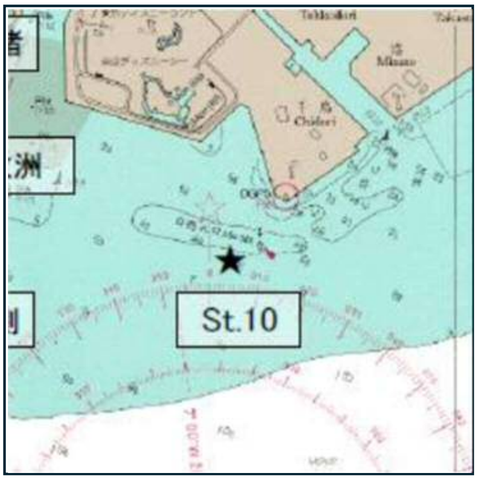


重要な食用魚であり、底曳網やまき網等で漁獲される。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸からやや沖の表層付近で普通に見られる。仔稚魚は小型の動物プランクトンを食べているが、成長するに従って魚食性が強くなる。

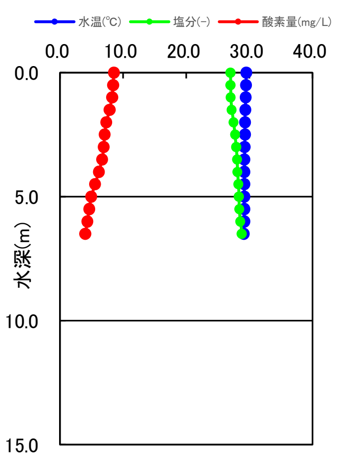
内湾の水深 5～30m の砂泥底に生息する。光沢があり美しい網目模様の殻を持つが、硫化物の影響で黒ずむ個体もある。

調査地点：St.10

調査地点位置



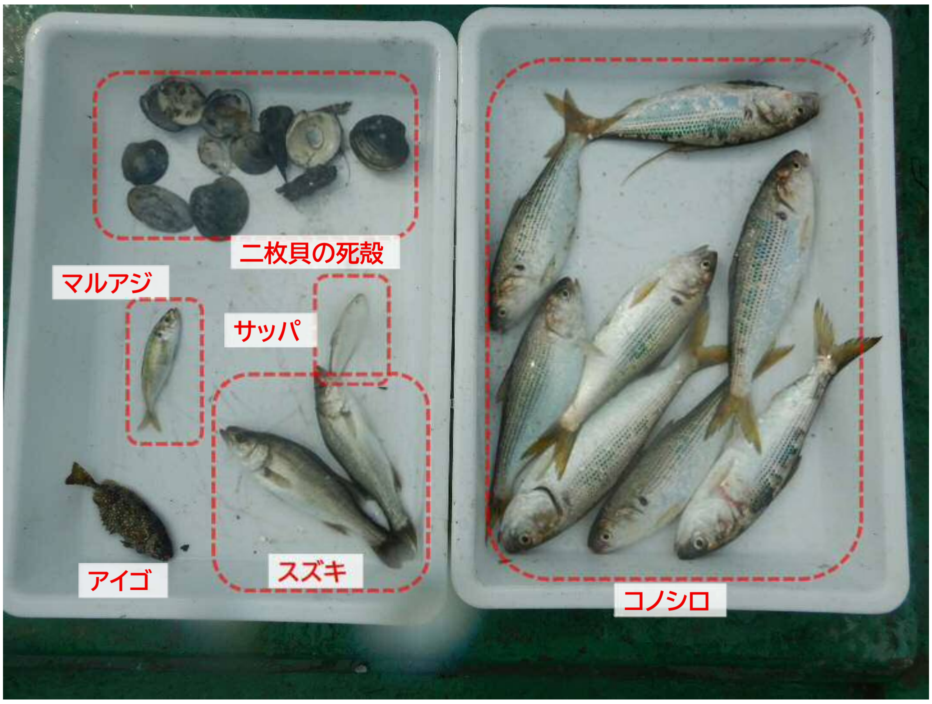
水質状況



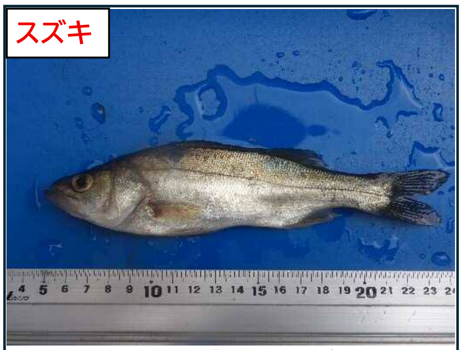
地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

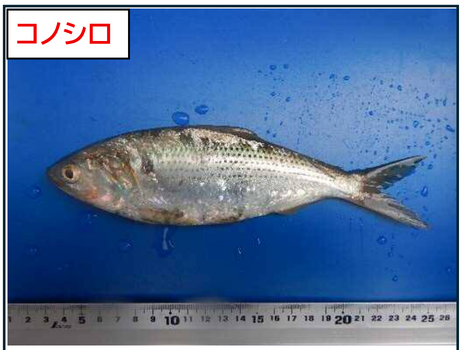


採取試料（全量）

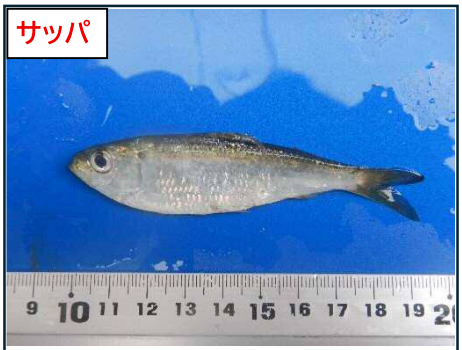


外海に近い湾口部や岩礁で生まれたのち稚魚は春季になると内湾に移動する。エビや小型魚類を食べる。夏季には汽水域や河川に生活範囲を拡大する。

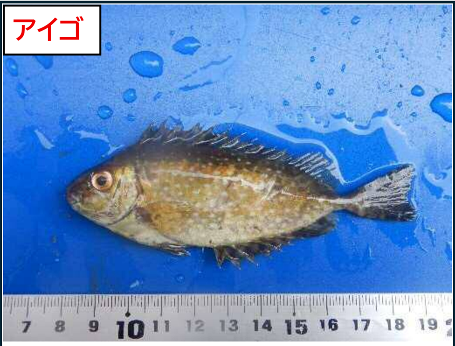
主な出現種　※写真のスケール１目盛り：1mm



体は銀白色で内湾の砂泥上にすむ。釣りや底引き網で漁獲される。水面に上げると浮袋を使ってグーとなく姿がグチを言っているように見えることから「グチ」と名がついたといわれている。



内湾や河口付近の砂泥域に生息する。稚魚期はコノシロとよく似るが、成長するとコノシロには体側に黒色に斑点が現れ、サッパにはないことから区別できる。



各鰭に毒を持つ。体長が 3cm を超える頃から藻類を中心とした雑食性となる。磯焼けの要因となる食害生物として知られている。